

2021 年度図書館活動報告(事業計画の実施状況)

【2021 年度の到達目標】

書籍、論文等のコンテンツ、それらの流通を支える情報ネットワークおよび利活用の場を提供するとともに研究成果物を組織化・整備し、社会に対して教育研究活動の発信・普及に努める。学術情報基盤を整備することで、大学における教育研究活動の根幹を支える。

【利用促進へ向けての目標】

1. ウィズコロナの状況下、感染症対策を十分に講じながら、利用者の利便性を考慮した図書館運営を継続する。授業以外の時間に学生が自ら学習できる場所を提供

(1) 入館者数、貸出人数、貸出冊数の回復…前年度比増加を目指す。

①入館者数: 2019 年度(58,254 人)、2020 年度(9,384 人、前年度比-48,870 人)

⇒ 2021 年度目標値: 30,000 人(2019 年度の半数以上)

⇒ 2021 年度 17,692 人(2019 年度の 30.37%)

②貸出人数: 2019 年度(9,180 人)、2020 年度(2,680 人、前年度比-6,500 人)

⇒ 2021 年度目標値: 5,000 人(2019 年度の半数以上)

⇒ 2021 年度 4,474 人(2019 年度の 48.74%)

③貸出冊数: 2019 年度(22,328 冊)、2020 年度(8,749 冊、前年度比-13,579 冊人)

⇒ 2021 年度目標値: 15,000 冊(2019 年度の半数以上)

⇒ 2021 年度 11,148 冊(2019 年度の 49.93%)

いずれの数値も 2020 年度から回復しつつあるが、2021 年度に目標とした 2019 年度の半数以上には達しなかった。

(2) 郵送による資料貸出の継続。

学部学生・大学院生・教員、計 133 人に対し 513 冊の郵送貸し出しを実施した。

2. アフターコロナを視野に入れた電子媒体資料の収集と提供方法を考察していく。

オンライン・データベース、電子ジャーナル、電子ブックの体系的整備の検討、利用環境の整備を継続した。洋雑誌購読タイトル数とオンライン・データベース契約数について検討、電子ブックの積極的導入を継続し、係る予算配分の検討を行うとともに、図書館学術資料全体のバランス的な収集を実施し、リベラルアーツを掲げる本学規模大学図書館資料費の経費確保について検討を継続中。

注) ※赤文字: 2021 年度点検・評価シート(年度末評価) 項目番号
※ピンク色文字→成果が上がっている事項
※水色文字→成果が得られていない事項

I. 学習の質保証および研究支援の充実

1. 教育学習支援機能の充実

→学生の「主体的な学び」、学修時間増加と学習成果向上を支援

(1) ラーニング・コモンズの環境整備・支援体制拡大→学生サポーターの活用 ←E-(1)-1)

→(COVID-19)学生サポーターとして主に学部生を対象とした学修サポートをするための大学院学生スタッフおよび図書館 Eco サポーター等の学生スタッフ募集は休止した。

(2) 学部生・大学院生を対象とした情報リテラシー教育の展開→授業・演習への支援参加・図書館ガイダンスの継続・拡充 ←E-(1)-1)

→情報リテラシー教育の展開は、基礎課程演習全 28 クラス(対面形式 2 クラス、オンライン形式 13 クラス、ハイブリッド形式 13 クラス)、フランス文化演習ゼミ、国際文化協力演習ゼミ、人間関係学科 2 年次生全員、英語文化コミュニケーション学科 2 年次生対象“Academic Writing 2”を対象とした情報検索ガイダンスを Google Meet を利用して実施、学生アンケート結果も好評であった。加えて、英語文化コミュニケーション学科 3 年ゼミ受講生(Google Meet)、人間関係学科 2 年「社会調査実習1」受講生(4 グループは Google Meet、1 グループは対面)に対し、いずれも授業担当者と綿密な連携を図り、実施した。

(3) 学生利用者の要望に迅速対応、学生提案企画の採用→学生との協働推進、Facebook・Twitter の利用 ←E-(1)-1)

→(COVID-19)学生からの利用に関するメールや電話での問合せ(電子図書、オンラインデータベースその他利用方法・開館時間や貸出、資料複写依頼等に関する質問)に、すべて迅速に対応した。

→My library からの学生購入希望受付 73 件(前年度比 24 件増加、1.49 倍)。

→文献複写依頼受付件 173 件(前年度比 34 件増加、)。内学生から 73 件(前年度比 33 件増加)。すべて My library からの文献複写依頼であった。

→オンラインイベント「あなたが選ぶオススメの eBook」に 3 名の学生が参加、7 点の電子書籍を選書し、POP 制作と図書館内での展示、投票等を実施した。

2. 研究支援機能の充実 →研究資源・成果共有、研究力強化・研究環境改革の促進

(1) 機関リポジトリのコンテンツ充実→学術情報データの公開と流通の推進 ←E-(1)-5)

→「聖心女子大学論叢」掲載論文 8 件(前年度比 4 件増加)を登録。

→博士論文全文 0 件(前年度比同数)、要約 1 件(前年度比 1 件減少)、内容の要旨および審査結果の要旨 1 件(前年度比 1 件減少)を掲載。

→「聖心女子大学大学院論集」収録論文の全文 6 件及び論文要旨(抄録)1 件を掲載。

→「宗教と文化」掲載論文 5 件(前年度比 5 件増加)、掲載報告 5 件(前年度比 5 件増加)を掲載。

(2) 研究成果公開の具体的運用方法を整備→オープンアクセス方針策定後の運用整備

←E-(1)-5)

→『聖心女子大学論叢』のバックナンバー登録へ向けて、電子化・公開に係る著作権の利用許諾処理を継続中。

3. コレクションの構築と適切なナビゲーション機能構築

→基本的役割(学術資料収集・構築)を持続、電子情報資源へのアクセスを保証

(1) 一般教養書・学習支援書の積極的収集と指定図書・授業用参考資料制度継続実施 ←E-(1)-1)

→学生からの購入希望受付件 76 件(前年度比 25 件増加、1.49 倍)。

→(COVID-19)指定図書制度利用

1 クラス(前年度比 2 件減少)、図書冊数 2 冊(前年度比 22 冊減少)。

→授業用参考図書

授業用参考資料制度による登録数は、76 クラス(前年度比 22 クラス減少)、図書冊数 233 冊(前年度比 63 冊減少)であった。内、購入冊数 6 冊(前年度比 11 冊減少)、購入経費 7,252 円(前年度比 26,762 円減額)。教員からの希望 0 クラス(前年度比 9 件減少)、参加教員数 0 人(前年度比 2 人減少)、図書冊数 0 件(前年度比 105 冊減少)。

(2) 各学問分野の専門研究図書の積極的収集 ←E-(1)-1)

→教員からの購入依頼件数は、953 件(前年度比 63 件減少、93.79%)。

内、My library からの購入依頼件数は、170 件(前年度比 55 件増加、1.48 倍)。

→システム「Smart PLATON」による教員からの購入希望図書依頼件数 455 件(前年度比 115 件減少、79.82%)。

(3) オンライン・データベース、電子ジャーナル、電子ブックの体系的整備と利用環境の最適化

←E-(1)-1)

→オンライン・データベース契約数は、前年度に引き続き 21 タイトルの契約を継続し、新規 1 タイトルを復活させた。

→(COVID-19)2020 年度に引き続き、出版社およびアグリゲーターから学外アクセス用 ID・PW を取得するとともに、VPN 接続環境を維持し、オンライン・データベース学外アクセス環境の整備を継続した。

→(COVID-19)「LibrariE(ライブラリエ)」(洋書 171 点、2021 年度新規購入なし)、「Maruzen eBook Library」(和・洋書 180 点、内 2021 年度新規購入 7 点)、「ProQuest Ebook Central」(洋書 21 点、新規購入 0 点)、「KinoDen」(和書 22 点、内 2021 年度新規購入 17 点)との契約により電子ブックの導入と点数増加に努めている。

(4) 図書館情報システムの機能強化による利用者サービスの充実の促進→業務効率化と ICT 活用による情報資源の効率的利活用への取り組み ←E-(1)-1)

→図書館 HP トップページへのアクセス数は 49,461 回(前年度比回 6,284 増加、1.15 倍)。

→OPAC 検索回数は 109,239 回(前年度比 52,217 回増加、1.92 倍)、My Library へのログイン回数は 22,267 回(前年度比 4,747 回増加、1.27 倍)。

(5) 保有資料のデジタル化(特殊文庫アーカイブ電子化)の促進(デジタルアーカイブ構築と利活用、知的生産物の長期保存に貢献) ←E-(1)-1)

→昨年度実現できなかった『聖心女子大学論叢』第 1 集～第 116 集の PDF 化を終了した。今後、登録作業を進めて行く。

(6) キリスト教文化研究所と連携し、「岩下文庫」の研究調査活動に参加協力 ←E-(1)-1)

→キリスト教文化研究所の事業に合わせて、「岩下文庫」目録の電子化を開始した。約 1,100 点のうち、約 300 点の書誌・所蔵情報を入力済み。

4. 図書館のハード環境の整備 →コンテンツの管理と学習・研究空間の確保

(1) 図書館利用の利便性を継続確保→複数の図書館出入り口継続設置による動線確保、夜間開館・自動貸出装置設置を継続 ←E-(1)-1)

→(COVID-19)入館者数は 17,692 人(前年度比 8,308 人増加、1.89 倍)、貸出人数は 4,474 人(前年度比 1,794 人増加、1.67 倍)、貸出冊数は 11,148 冊(前年度比 2,399 冊増加、1.27 倍)

→(COVID-19)入館者数、貸出人数、貸出冊数ともに回復しつつあるが、コロナ禍以前の 2019 年度の半数には達しなかった。

(2) 図書館内空間の利用機能の見直し→資料再配置による書庫スペースの有効活用 ←E-(1)-1)

→昨年度に引き続き、A 書庫および B 書庫 1 階の換気対策に加え、閲覧室等の水漏れ対策が最優先事項となり、書庫スペース有効利用は計画を中止している。当面は、図書館内空間の感染症対策を最優先とする。

(3) アクティブ・ラーニングを実現するための、図書館施設を含む 1 号館の学習環境整備 ←E-(1)-1)

→1 号館 1 階に位置する現状の施設を将来キャンパス整備がなされるまでの期間、図書館利用者へ最適な環境を整えるため、時代に見合った施設・設備を整えるための情報を収集。

→(COVID-19)感染症拡大防止対策を行っているが、なお不足する部分について次年度に向け引き続き対策を検討中。

5. 他機関・地域等との連携 →図書館広報の展開

(1) 図書館資料展示会、講演会開催→地域(社会)との連携強化 ←C-(1)-4)

→本学教員による学生へのお薦め本紹介「先生方ご推薦！大学生に読んでもらいたい本」展示 2 回、特別展「潜伏キリシタンと排耶書」展示、計 3 回の資料展示を行った。

→(COVID-19)利用者数は未だ少ないが、来館閲覧者に向けて、次年度も展示を計画する。

(2) 卒業生、学生父母への利用サービスの継続→新たな学修ニーズに対応 ←G-(2)-8)

→(COVID-19)入構制限対応として、来館利用の際は、事前連絡等の制限を設けている。

姉妹校との連携

→聖心インターナショナルスクールからの要請により、共同利用可能なオンライン・データベースについて共同利用を継続している。また、聖心インターナショナルスクール生徒の来館利用を受け入れた。

(3) 入学手続者への入学前利用サービス継続→高大教育連携の推進 ←D-(1)-4)

→本学への入学者を一人でも多くするために、制度を改定し、入学前利用の対象者を入学許可者から本学入学試験合格者全体に広げた。来館者 3 名(前年度比 1 名増加)

(4) 高校生への通年にわたる図書館開放→高校教育の質保証と入試改革支援 ←D-(1)-4)

→(COVID-19)例年行っている、夏休み中の高校生への図書館開放は実施できなかった。

(5) 地域の他大学・公共図書館との連携 ←C-(1)-4)

→日本カトリック大学連盟加盟校と連携し、本年度はオンラインによる総会・研究大会を実施し、日本カトリック大学連盟図書館協議会の新たな体制作りに向けて相互理解を構築した。

→(COVID-19)来館による相互利用は原則中止とした。大学ごとに感染症対策への対応が異なるため、利用に関しては個別に相談・打ち合わせが必要であった。利用相互協定の締結校については事前連絡等の制限を設け、来館を認めた。(2021 年度来館者数は、カトリック大学図書館: 上智 1 人、清泉 1 人、渋谷区内大学・短期大学図書館: 日赤 1 人、相互利用協定校: 國學院 1 人、学習院大学非常勤講師 1 人)

II. 基盤確立のための運営体制の強化・・・組織・運営体制の在り方

1. 図書館将来計画の策定→戦略的な位置づけの明確化

(1) 学内外の知の集積拠点である施設としての観点のみならず、学習支援や教育研究に関する機能の観点からの位置付けの明確化 ←E-(1)-1)

(2) 中長期的サービス基本計画と評価指標の設定→客観的評価指標の開発(効果の分析・検証) ←E-(1)-1)

→学修環境の充実という観点から客観的評価指標の設定を継続検討中。学内 IR 研修会にて図書館における評価指標についての事例紹介を行った。

2. 安定的財政基盤の確立→図書館機能の維持・向上

(1) 大学全体予算の一定の割合を図書館経費として確保 ←E-(1)-1)

(2) 洋雑誌、電子ジャーナル、電子ブックに係る経費の適正化 ←E-(1)-1)

→洋雑誌購読タイトル数とオンライン・データベース契約数について検討を継続。

→電子ブックの積極的導入を継続し、係る予算配分の検討を行った。

- 図書館学術資料全体のバランス的な収集を実施。
- リベラルアーツを掲げる本学規模大学図書館資料費の経費確保について検討を継続。

3. 図書館委員会活動の積極展開

- (1)関係諸規程整備と大学における図書館の位置づけの明確化 ←E-(1)-1)
- (2)学士課程及び大学院課程各専攻との連携協力関係の推進 ←E-(1)-1)
 - すべての事案を図書館委員会と連携し積極的に処理。

Ⅲ. 図書館職員の育成・確保

1. サービスの高度化に向けた専門職員の確保・育成

- (1)学術情報流通の仕組みを理解し、学術情報基盤を構築する能力をもつ職員の確保 ←G-(2)-6)
 - 図書館職員の確保がなされず、専任職員数の不足が常態化しているため、将来に繋げるための業務の継続性が望めない。大学全体での理解と調整が必要である。
- (2)教育研究支援を円滑に行ない図書館全体のマネジメントができる得る職員の育成 ←G-(2)-6)
 - (COVID-19)オンラインによる研修その他により、職員の能力向上を図ってはいるが、長期にわたる期間を要する高レベルの研修を受ける余裕がない。長期的な検討が必要となっている。

2. 大学図書館業務の特殊性を考慮した職員の育成・確保の在り方 ←G-(2)-6)

- (1)各種研修会への参加奨励
 - (COVID-19)オンラインによる研修その他により、職員の能力向上を図ってはいるが、長期にわたる期間を要する高レベルの研修を受ける余裕がない。長期的な検討が必要となっている。